

# 自立活動だより

埼玉県立熊谷特別支援学校  
自立活動部  
令和6年 9月 10日発行

暑さもだいぶ和らぎ、朝晩には少しずつ秋の気配を感じるようになりました。前期も残すところわずかとなりましたね。今回は、教職員研修会で本校の特別非常勤職員、熊谷総合病院の理学療法士羽鳥航平先生に「呼吸と側弯症について」お話をお聞きする機会があり、そこで、コルセットの付け方と側弯について参考となる質疑応答がありましたのでご紹介いたします。装具の装着や側弯予防について共通理解が持てると良いと思います。

## ① コルセットの付け方について

**【質問】** コルセットは、正しくつけないと意味がないと聞いたことがあります。コルセットの使用に際して、きつくつらそうに見える場合、ゆるくつけてもコルセットの効果は見込めるのでしょうか。また、正しくつける基本的なポイントがあれば教えてください。

→ **【回答】** コルセットは医師のおっしゃる通り正しいつけ方でないと効果が発揮できませんので、きつくつらそうに見えると言って緩く装着するという対応では効果が無効となる場合も考えられます。コルセットは児童生徒の体を石膏で採型して作製しますので、「きつくつける」というよりも「正しいベルトの締め具合でつける」ことが重要です。コルセットを作製したときに、医師または義肢装具士から保護者にきちんと装着できるよう伝えられていなければなりません。ただし、児童生徒も採型時より体が大きくなったりして体に合わなくなることが往々にしてあります。大切なのはその時点で

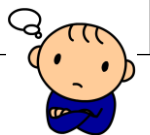


児童生徒の体にフィットさせることですので、明らかに合わなかったり、言われたきつきでつけようとした時に無理があったり、本人がつらそうな場合は、即受診をし、コルセットの状況を医師に伝えて調整してもらったほうがよいです。医師または義肢装具士と保護者が正しいベルトの締め具合やコルセットの位置を確認する（ベルトにマジックで目印をつけるなどすると良い）、その後で保護者と担任等で確認をする。最初に確認した位置がきつそうなら保護者により医師に相談する。この2点が重要です。

## ② 側弯症について

**【質問】** 側弯症は、進行する前の早期の対応が大切と聞いたことがあります。側弯症初期もしくは、現在は側弯症ではないけれど今後が心配という子どももいると思います。子どもを見るうえで、側弯症の初期や今後心配な生徒の身体の特徴等、レントゲン以外で見るべきポイントや分かりやすいポイントがあれば具体的に教えていただけると嬉しいです。（うつ伏せのときに肩甲骨周辺の盛り上がり方が左右で違う、骨盤の位置が左右で大きく違う等を聞いたことがありますけどどうなのでしょう？）また、左右だけでなく、ねじれ等がある場合の身体の見方もあれば知りたいです。

→ **【回答】** おっしゃる通りです。ポイントとしては、質問内での文通り、仰向けやうつ伏せの時の左右差は観察のポイントになります。正常では仰向け・うつ伏せは手や足、腰などが左右対称です。また、横向きも左右対称です。いろいろな姿勢で左右差を観察することで、変形を発見できる可能性はあります。また、頭の位置（向き）も、いつも同じ方を向いている（傾いている）場合は変形の予兆になる場合もあります。座位での傾きや、同一方向への寝返りも同様です。まとめると、① 仰向け、うつ伏せで左右差がある体の部位があるか（頭、肩、肘、手、骨盤、膝、足など）② 横向きの姿勢で左右差があるか（横向きが片方しかできないなど）③ 寝返りは左右両方できるか④ 座位、立位で左右差がある体の部位はあるか⑤ 手足を動かす時に左右差があるか（例：右上肢の方が左上肢より動きにくい、固い。左股関節の曲がり方が右股関節より悪いなど）です。ねじれも同じポイントで観察ができます。



お願い：今回の件に関して、直接、羽鳥先生への質問等はご遠慮ください。何かありましたら自立活動部員まで！